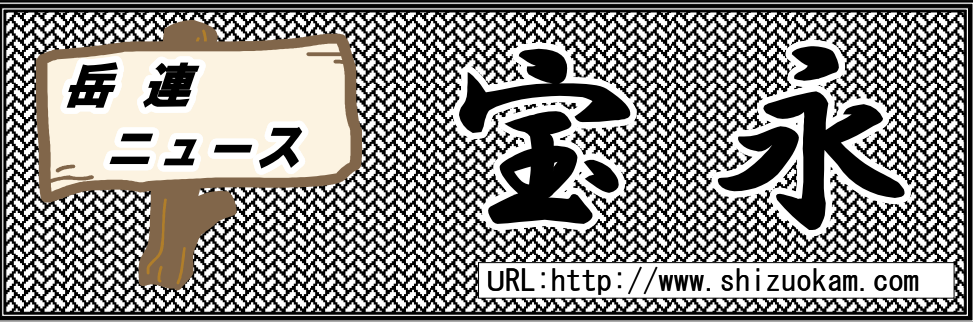




ボルダ競技会場

ボルダリングは、世界選手権優勝者を含め、日本のトップ選手の多くが出場し、予選から厳しいルートセットが予想された。第一課題ははりぼてが連続した、力を使わせる課題で、田邊がB2で完登間近まで迫ったが、トライ数が多く力尽きてしまう。第2課題は、スラブのバランスのいるムーブから、遠いスタンスを踏み右の張りぼてに乗り移るルートで2名ともB

この日は朝から冷たい雨が降り続き、ルート壁は直接濡れないまでも、湿り気が多く良いコンディションとは言い難かった。15mの壁の高さで7mほ



上下段可変傾斜リード壁

ボルダリング予選では、1課題目で2人とも1回目のアテンプトを失敗しそのまま調子に乗り切れずに終わってしまった。2人の実力からすると16位という順位は信じられないが、クライミング競技の結果がいかに精神状態と直結するか痛感した。リードでは望月が個人15位と健闘したが、東海ブロックで1位であった北脇が中盤にさしかかったやや悪い部分で目測を誤りホールドをとり損ねて落下し、チーム順位10位で予選落ちした。

昨年の成績や東海ブロックの結果から、入賞は当たり前という雰囲気があり、それが選手にプレッシャーになっていたことは考えられるが、経験やメンタルを含めてまだ足りないものが多いともいえる。2人とも来年も出場する気持ちをもっており、伸び盛りの選手である。今後も応援していきたい。(監督 難波利行)

静岡県山岳連盟

〒420-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

平成28年11月21日発行

第19号

成男・成女チーム健闘

成女リード競技惜しくも入賞ならず

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

盛岡市で10月7日～9日の間、開催され、本県からは、成年男子チームと東海大会で勝ち抜いた成年女子チームが参加した。結果は、成年女子はリード競技で10位と惜しくも入賞できなかった。成年男子は、実力を発揮できず悔しい思いをした。成女と成男チームの健闘を大いに讃えたい。

1まで。第3課題は、スタートからダブルダイノの傾斜の強い面を、ダイナミックに直上するルートで、伊藤が終了点までいくが両手マツチが出来ず、完登ならず。田邊も同地点まで迫るが、完登できず。第4課題は、足の悪い細かい部分をこなすルートで完登率が最も悪く下部でフォール。4課題とも0完登で28位。前年よりも完登率は低かったと思われる。ただ、第1課題の田邊と第2課題については完登の可能性があったので課題の見極めがあればと惜しまれた。世界の大会の流れそのものにはりぼてを多用した課題で、体幹、体力を使わせるものが多かった。8日(土)リード競技予選

ど前傾したフラット壁である。はりぼてや大型ホールドを使った変化のあるルートで持久力の中にもボルダー的な要素の強いメリハリのある構成となった。両名とも7mまでは問題なくこなす。その後伊藤は8m地点でクリップに力を使いフォール。田邊はその上のカチホールドから遠いホールドを

ボルダチックに取り、上部壁に突入し、最も傾斜の強い12・5m地点まで登り、力尽きてフォールした。総合20位で健闘したと思う。

どの種別もそうであるが、特に成年男子は、どちらかに特化しないと、入賞は非常に困難であると思われる。

(監督 諸戸明)

全国大会出場選手決まる

第17回高校クライミング競技大会

第17回高校クライミング競技大会が、12月に埼玉県加須市で行われる第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選を兼ねて、11月3日(木)、浜松スクエア会場に、4校34人(男子24、女子10)の生徒が参加して行われた。当日はクライミングへの関心が高まる中、高体連の理事長も来場し、決勝まで競技を観戦した。

女子の予選は、4番壁を登るルートで2名が完登し、5名が決勝進出(グレードは11c)。男子予選は、5番壁のやや足の悪いルートで5名が完登、最終クリップを間違えた2名と加えた7名が決勝に進出した。(12a)。

女子決勝は、6番壁から、メイン壁右側を登るルート(11d、12a)で、浜松日体の鈴木と富士宮西の勝本が完登し全国大会出場を決めた。(タイムで鈴木が優勝)男子は、メイン壁の真

ん中を登るルート(12b、12c)で、7名ともルーフを越え、上部壁に入ったが、終了点をつかんだのは、富士宮西の望月衛のみで、完全優勝で、2位には浜松学芸の大橋が入り全国大会への出場を決めた。

大会の結果、男子は3名(学校団体枠1名を含む)、女子は3名(日山協推薦1名を含む)が全国大会に駒を進めた。会場を提供をしていただきルートセットを行っていただいた浜松スクエアさん及び運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。

全国大会出場者は以下の通り。

男子1位 望月 衛(富士宮西) 2位 大橋 歩(浜松学芸)

「学校団体枠」古郡雷漸(富士宮西)

女子1位 鈴木彩有希(浜松日体) 2位 勝本 真衣(富士宮西)

本真衣(富士宮西)

「日山協推薦」中村祐香梨(諸戸明)

第17回 静岡県高校クライミング競技大会結果

男 子		女 子	
1位	望月 衛	富士宮西	鈴木彩有希
2位	大橋 歩	浜松学芸	勝本 真衣
3位	原 賢伸	浜松日体	與五澤まのか
4位	河合 康太	浜松日体	宮脇 菜緒
5位	砂子 由弥	浜松日体	高柳 果穂
6位	石原 大暉	浜松日体	佐伯 周音
			富士

9月常任理事会

9月5日(月) 18時30分から静岡労働会館5階会議室で常任理事会が開催された。

出席者は滝田、木ノ内、前川、豊田、堀内、松永、小田、田中、坂田、内海、増田、市川、浅井、諸戸、内山、清水(文責) 計16人

1 会長挨拶

① 山の日の講演会、写真展ご苦労様でした。 2

00人近い参加がありました。

② 10月16日の記念ハイクにおいて、東・中・西地区それぞれに山岳連盟として役員を2人ずつ出してもらいたい。

2 各委員会からの事業報告

指導委員会より(小田)① ハイキング・縦走リリーダ―養成講習会 6月18日実施。24名参加。

② 唐松岳・五竜岳を登ろう講習会 6月22日、7月13日の座学、7月10日の山伏での実技を経て、本番は7月30日、31日に実施した。16名の参加があった。

③ 少年少女登山教室参加者が1家族のみ。指導委員会工藤が対応した。

④ 国体東海ブロック予選について(諸戸)成年女子が1位となり本国体出場権獲得。少年は男女とも4位で本国体出場権を得ることができなかった。

⑤ 全国高校総体について(諸戸)男女別成績表が配られた。女子で富士高校が初出場ながら優勝した。

3 各委員会の事業計画

について

① 赤岳に登ろう(小田)現在12人が参加希望

② 中級レスキュー講習会(堀内)11月19日、20日に実施する。講師は堤信夫氏 19日は定員20人、20日は西湖の岩場で実践を行うので定員は10人とする。

③ スポーツフェスティバル(堀内)

④ 山の日の記念ハイク(10月16日)実施する

⑤ 高校クライミング競技会について(諸戸)11/3にスクエアクライミングセンター(浜松)でリード競技を実施する。この大会で、12月に行われる全国選抜高校クライミング大会の静岡県枠2名を決める。

⑥ 竜爪山岳競技会について(清水)12月11日に実施。概要は昨年通り。

4 岳連カレンダーについて(滝田)今年度も「世界の名峰」300部すでに完成。制作費は上がったが、販売価格は例年通り1部千五百円とする。各団体は購入に協力願いたい。

5 その他

① 国体選手団について(木ノ内)総監督・滝田会長、成年男子監督は諸戸(富士高校教諭)、成年女子監督は難波(葦山高校教諭)の承認を求め、承認される。

② 溶けないチョクレートについての紹介(滝田)実物とパンフレットが示された。アンケートに協力できる場所はお願いしたい。

③ リニア新幹線の南アルプスに対する影響に関する署名運動について(滝田)パンフレットと署名用紙が配布された。対応はそれぞれの団体に任せる。

④ 8月11日の山の日記念行事の今後の進め方について(滝田)来年度も講演会や記念ハイクなどを実施する方向で考えている。次年度のやり方は実行委員会で今後検討していく。

『意見』山の日の記念ハイクとスポーツフェスティバルの日程が近いと準備対応が難しくなるので日程を考慮してほしい。

(清水雄三)

小屋泊自炊で赤岳登山

秋山登山教室 座学をへて実習登山

昨年度に引き続き、第2回目の秋の登山教室である。目指すところは、夏山登山教室のワンランクアップであり、具体的には「山で自炊の経験をすること、テント泊登山への一つのステップにしてみたい」という思いを持つての企画である。

目的地を、「錦秋の八ヶ岳「赤岳」と決め、参加者は、事前に行う2時間の座学を受講してもらった。

【座学】
9月28日に行った座学のテーマは、「山小屋泊登山に必要な装備と技術」である。

前段の山での食事の講義は、自炊に必要な用具、それらを使った料理と献立がテーマである。用具の解説では、実物を見せながら、宿泊数やパーティーの人数等によって持つていくものが違う。用具を購入する際は、「コンパクトで軽い」しかも「使いやすい」ものがいい。

また、実技登山当日の夕食のメニューは、ちらし寿司と豚汁、コッヘルでの芯のできにくいお米の炊き方などを伝えた。豚汁を作るに当たっては、各人1品ずつの具を持ち寄ることとした。

後段の山小屋泊まりの講義では、山小屋を利用する際は、小屋番を始め、周りの人への気遣いをするのが大切、また、持ち物ではヘッドライト、地図・コンパス、雨具は、どんな小さな山でも必要であり、これを疎かにすると最悪の場合、命を失うこともある等を伝えた。

座学の最後に、計画書をもとに「赤岳」登山の概要を説明し、受講者全員がスケジュール、持ち物等について意思統一した事を確認した。

【赤岳登山】

10月22日、23日、八ヶ岳「赤岳」の実技登山。天気予報では、土日のいずれかが雨であったので、それなりの覚悟をしていたが、結果的には2日間

とも雨にも降られず、風もなく、いいコンディションの中での山行をすることができた。受講者は12名(女性4、男性8)で、講師4名がサポートする体制で臨んだ。

22日(土)は、美濃戸口八ヶ岳山荘前駐車場に、



マイカー9台に受講生・講師が単独あるいは乗合で、12時に集合。駐車場で、持ち寄った食材、共同装備の確認と分配。皆でストレッチ体操を行い、宿泊場所の行者小屋に向き出発した。12時30分。一時間ほどで、美濃戸に到着。ここから南沢に入り、沢沿いの道をゆっくりゆっくり登ること約3時間で、赤岳、横岳直下の行者小屋に到着。16時20分。ほぼ予定時刻の到着であつた。小屋に入っ

て持ち寄った炊事用具、食材を使い、ちらし寿司用のご飯炊きと豚汁を、講師の指導のもと、4つの班に分かれてワイワイガヤガヤ楽しく料理した。料理の核心部は、ご飯炊きである。いかに、芯が入らず、焦がさず炊くか。その秘伝を、講師が特別に教えてくれた。最初のポイントは、水の量である。水を下界よりも少し多めに入れ、一気に炊き上げる、グツグツ茹だつてきたらしやもじでかき混ぜながら、水分がなくなってくるのを待つ。水分がなくなってきたと思ったら弱火にし、しばらくして匂ってきたところで、コッヘルをひっくり返し、数分間蒸して出来上がり。結果、わがA班は、ちよつと芯があるかな程度で、まあまあの出来で炊きあがつていた。お陰で、美味しいちらし寿司と豚汁をごちそうになることができた。夕食後は、皆で片付けと明日の朝食の準備(雑煮、松茸のお吸い物、もち3個)を済ませてから、各自部屋に引き上げ、懇談。



翌日23日は、天気予報通り快晴。朝、4時から朝食(雑煮)の支度。出来上がったところで、さつさと朝食を済ませ、5時半、ヘッドライトを照らしながら赤岳山頂を目指して行者小屋を出発。文三郎尾根に取りつく。途中、階段に差し掛かった辺りで、うっすら明るくなり、中岳とのコルに着くころには、すっかり日が差してきた。皆、慎重ながら、順調に歩を進め、7時5分、赤岳山頂に到着。頂上では、御岳山、乗鞍岳、中央アルプス、南アルプスの山並みを始め、遠くは北アルプス、富士山等々、360度、手に取るように見ることができた。しばし休憩の後、下山。途中、赤

岳頂上山荘の広場で講師によるミニ講話を聴く。今回のテーマは「装備の話とブロッケン現象について」ご本人の経験談を踏まえ、合羽一つでもザツクと組み合わせれば人を背負う道具の一つとしても使えるなど貴重な話を伺った。下山路は、地藏尾根をとる。怪我の8割は下山の際起こることを肝に銘じて、各人、石を落とさないこと、滑らないよう注意して慎重に下る。9時15分行者小屋に到着。小屋に預けた荷物を回収し、美濃戸口八ヶ岳山荘駐車場12時に到着。整理体操のストレッチをした後、解散。帰路の途中、小淵沢インター手前の鹿の湯につかり、二日間の汗を流した。けがなく、ほぼ予定通りのスケジュールで終えることが出来た。受講者は、山の経験者が多かったが、自炊というのは初めてに経験したことなく、彼ら彼女にとつてはいい経験になったと思う。ぜひ、今後の登山に活かしてくれればいいなと思う。(田中保広)

ス。ポ。フ。エ。ス。登。山。大。会

秋晴れの中充実した登山に

平成28年度の第10回しずおかスポーツフェスティバル登山大会は御殿場市がホストを務め、9月24日、25日、富士山5合目周辺を会場に開催しました。

今大会は、国立中央青少年交流の家を宿泊施設と設定した為、他の団体との交流も有りました。

初日Aコースは富士山須走登山道旧道を五合目から小富士では小雨で視界が悪く山梨県と静岡県



ニオンと呼ばれている谷に下り、火山噴出堆積層とフジアザミの群生する中で記念写真を撮ることが出来ました。途中世界遺産登録された須走口浅間神社に立ち寄っていた



次の日、25日は前日の雨が嘘のように晴れ、富士山山頂には雪が見られ、初冠雪・初雪と、もめましたが甲府地方気象台から目視できず初冠雪と記録されないとの事でした。Bコース登山スタート地、御殿場口駐車場は観光客・登山者・その他

平成28年度自然保護委員総会

平成28年度の自然保護委員総会が9月3日(土)〜4日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

(自転車レースの為水ヶ塚〜富士宮口5合目間が一時通行止め)で大変な混雑、Bコース受け付けが1時間ほど遅れましたが、穏やかな天候の中スタートすることが出来ました。幕岩を抜けると富士山山頂も確認でき、秋晴れの中充実した登山となりました。

(佐藤幸男)

平成28年度の自然保護委員総会が9月3日(土)〜4日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。委員総会が今年で40回目を迎えたことから総会の別称を「第40回記念山岳自然保護の集い中央大会」とし、大会のテーマを「大都市に息づく百年の森に集う」とした。又、東京での開催は第1回が東京であること、明治神宮の森など人工的に作られ、年を経て巨樹の森となった姿に、自然と人間の関わりを感じてほしいとの思いからという。基調講演「山岳自然とライチョウの保護活動の現状について」

講師 東邦大学理学部 小林 篤氏

生息は、ヨーロッパアルプス、ロシア北部、日本の妙高の火打岳から南は光岳、イザルヶ岳などで、昔樺太から渡って来たと思われる。

乗鞍岳などで採取した卵を、動物園などで育て山に返すことを行ったが、成功率は低かった。個体数は80年720羽、15年306羽と減少している。

活動報告
参加28都府県の自然保護活動報告を行った。分科会
第1分科会
オーバーユースとトイレ問題、入山料について・委員へのアンケートで入山料3千円の意見もあつ



山岳会紹介コラム

宝永の20号から岳連所属山岳会の紹介コラムを設け、毎号に1団体の紹介をしています。組織の状況、山行の状況、トピック、PRなど会の実情を寄せていただきます。

傘下の山岳会の活動を知り、参考にすることで、高齢化、若年層の不在、会員募集、遭難対策、指導者の育成、山行管理等の悩みや疑問を解く手がかりになればという思いです。

原稿依頼が届きましたら、積極的に執筆して頂きますようお願いいたします。

(総務委員会)